

# 神山町の植物相

植物相班（徳島県植物研究会）

片山 泰雄<sup>1)</sup>・木内 和美<sup>2)</sup>・田渕 武樹<sup>3)</sup>  
 木下 覺<sup>4)</sup>・木村 晴夫<sup>5)</sup>・赤澤 時之<sup>6)</sup>  
 小松 研一<sup>7)</sup>・真鍋 邦男<sup>8)</sup>・小川 誠<sup>9)</sup>  
 水上 敏夫<sup>10)</sup>

## 1. はじめに

神山町は、県のほぼ中央に細長い形で位置している。吉野川の支流鮎喰川<sup>あくい</sup>は、幾多の流れを集め、神山町の中央を縫うように西南から東北に流れている。古来より多雨地域であったため浸食が激しく、現在のような急傾斜地の多い地形となった。神領<sup>じんりょう</sup>から下分<sup>しもぶん</sup>にかけての中流域では、洪積世時代の名残を残す河岸段丘が両岸にわずかに見られる。東西約40km、南北10kmの広がりを持つ当町は、東に徳島市との境の西竜王山（標高495.1m）・東竜王山（407.8m）や佐那河内村との境の旭ヶ丸（1019.5m）、南は上勝町との境の柴小屋山（1249m）や旭の丸峠（1200m）、木沢村にある雲早山<sup>くもそう</sup>（1495.9m）や木沢村との境の烏の丸（1457m）、西は木屋平村との境の東宮山<sup>とうぐう</sup>（1090.5m）、美郷村との境の権現山（899m）、北は鳴島町との境の梨ノ峠（約415m）、石井町との境の行者山（327.5m）、などの峰や峠に囲まれ、八カ市町村に接している（図1）。神山町の面積の約81%を森林が占め、自然林は、過去において薪炭林<sup>しんたん</sup>として多く利用されていたが、昭和30年（1955）ごろより急速にスギ・ヒノキの植林が進み、国有林の一部、共有林、社寺有林、植林困難地などの限られた地域にしか見られなくなった。気候については、降雨量は5～10月で年平均2012.7mm（平成2～10年、旭の丸〔1200m〕〔徳島地方气象台資料より〕）、年平均気温は16.7℃（最高気温36.1℃、最低気温-1.04℃〔町制40周年記念資料より〕）、県立神山森林公園（355m）の資料によれば、平成3年・5年・7～10年の6カ年平均で降雨量は1245.6mm、年平均気温13.05℃、最高気温は平成7年8月の34.5℃、最低気温は平成10年1月の-8.5℃。これらの条件から考えると、暖温帯性植物にとっては適正環境地域であるといえる。

---

1) 徳島県立城西高校神山分校    2) 牟岐町中村字本村    3) 徳島市西新浜町1丁目  
 4) 鳴門市立瀬戸小学校    5) 徳島市北田宮3丁目    6) 北島町中村字河原  
 7) 徳島県教育研修センター    8) 上板町立松島小学校    9) 徳島県立博物館  
 10) 徳島市鷹匠町4丁目

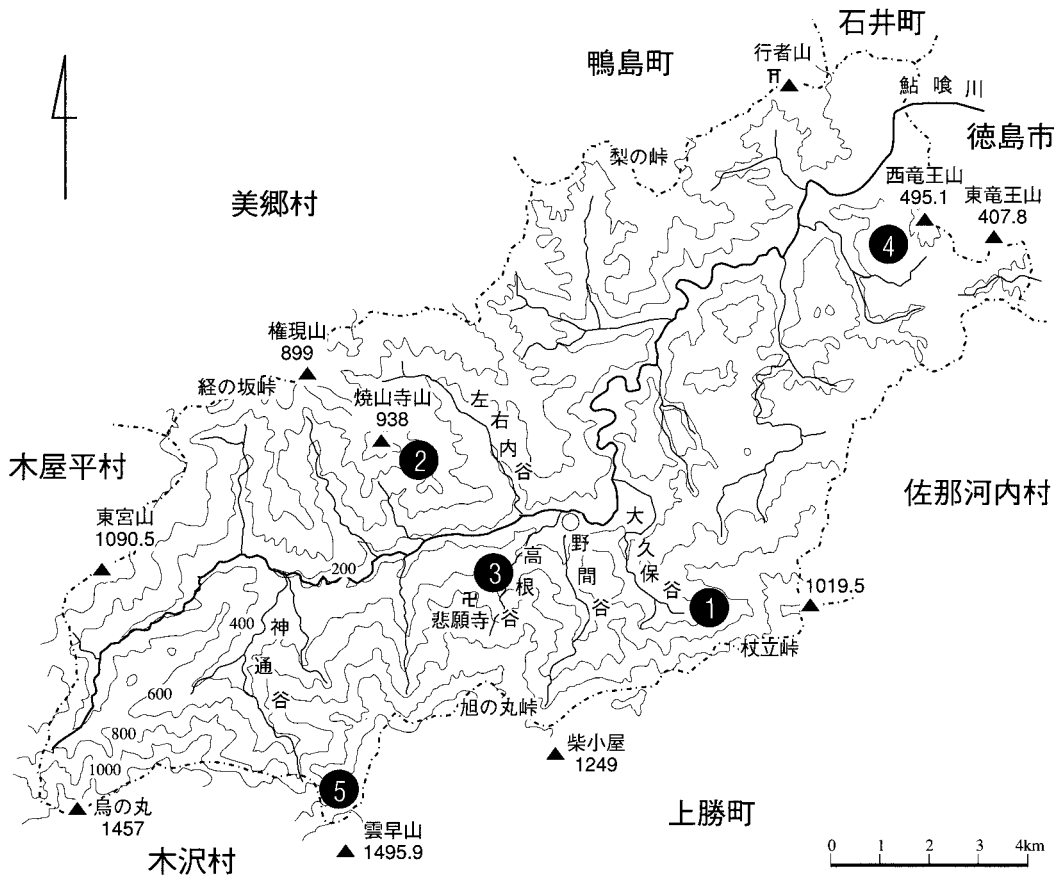


図1 主な調査地点 (数字は調査地番号)

## 2. 自然環境の概況

神山町の地質は、中央を東西に御荷鉾構造線が走り、それより北側は三波川層、南側は秩父層と大きく分かれ、鮎喰川もほぼ断層に沿って浸食を受けている。特に町の南側部分は標高がかなり高いため、雨量が多く、痩せ地であるので、植林が遅れ、県内では比較的希少な種も見られる。また気温は標高と関係し、入り組んだ地形のため、植物の種の分布に関係し、暖温帯気候域の海岸性植物や冷温帯性気候域の植物も見られるが、それは今回の調査地域外も含めての雲早山や柴小屋山、東宮山、焼山寺山で顕著である。県下においては自然林の減少傾向が見られる中、神山町の自然林は都市近郊の貴重な森林として残され、保全されている。

## 3. 神山町の代表的植物相

### 1) 大久保谷 (神領字南大久保) の植物相

鮎喰川の支流<sup>うえつのだに</sup>上角谷川は、大久保地区から南を大久保谷と呼ばれている。過去には銅鉱やマンガン鉱が産出された地域で、母岩ははんれい岩を主としている。上部には赤色凝灰岩や一部石灰岩も見られる。大久保の集落から奥の調査の結果、暖温帯から冷温帯までの植物相が標高につれ変化していて、照葉樹から落葉樹への移行が連続的に見られる貴重な地域であることが分かった。岩山が多く、栄養分が蓄積しにくい土壌のため、過去にはアカマツを主とした林相であった。侵入が妨げられ、植物の生長も遅くて、植林地には不向きであったために植林が遅れた結果、植物の種類数の多い地域であったが、近年はヒノキ、スギの植栽<sup>かん</sup>が増大し、生態系が変化しつつあり、谷川の水量が減少傾向で、水源涵養の効果も薄れつつあることがわかる。また西の支流上部には鉱山跡や屋敷跡もある。林道が山の奥まで侵入し、支流には堰<sup>せき</sup>も作られているが、溪谷が崩れ、貴重な植物が消失した所もある。ボタ山は樹木に覆われつつある。大久保谷（写真1）の下流域から林道に沿って、また林道終点から「つえたて峠」までの植物は次のとおりである。



写真1 大久保谷

○シダ類

ホソバトウゲシバ、ヒカゲノカズラ、クラマゴケ、カタヒバ、イワヒバ、スギナ、ゼンマイ、コシダ、ウラジロ、アオホラゴケ、イヌシダ、オウレンシダ、フモトシダ、ホラシノブ、イワヒメワラビ、ワラビ、オオバノイノモトソウ、マツザカシダ、オオバノハチジョウシダ、イワガネゼンマイ、ハコネシダ、タチシノブ、シノブ、オオキジノオ、ジュウモンジシダ、イノデ、ヤマヤブソテツ、ハカタシダ、イワヘゴ、クマワラビ、ヤマイタチシダ、トウゴクシダ、ゲジゲジシダ、イブキシダ（写真2）、ヒメワラビ、ミゾシダ、ホシダ、ヘビノネゴザ、ヤマイヌワラビ、カラクサイヌワラビ、シケチシダ、イヌワラビ、ヌリワラビ、キヨタキシダ、シシガシラ、コモチシダ、ノキシノブ、マメヅタ、クリハラン、ヒトツバ、サジラン。



写真2 イブキシダ

○木本類

カヤ、イヌガヤ、モミ、クロマツ、アカマツ、アスナロ、ヨシノヤナギ、タチヤナギ、

## 植物相班

バッコヤナギ、ノグルミ、イヌシデ、アカシデ、クマシデ、オオバヤシャブシ、ヤマハンノキ、ブナ、ウバメガシ、コナラ、アカガシ、ツクバネガシ、アラカシ、シラカシ、ウラジロガシ、クリ、ツブラジイ、ケヤキ、コウゾ、イタビカズラ、コアカソ、ツクバネ、マツグミ、フサザクラ、ムベ、アケビ、ミツバアケビ、メギ、ナンテン、シキミ、マツブサ、ヤブニッケイ、ダンコウバイ、ヤマコウバシ、カナクギノキ、ヒメクロモジ、シロモジ、アブラチャン、バイカアマチャ、ノリウツギ、コガクウツギ、ウツギ、コウヤミズキ、コゴメウツギ、ウラジロイワガサ（イヨノミツバイワガサ）、ヤマブキ、ホウロクイチゴ、フユイチゴ、ニガイチゴ、クマイチゴ、ナガバモミジイチゴ、クサイチゴ、バライチゴ、エビガライチゴ、ナワシロイチゴ、ヤブイバラ、テリハノイバラ、ヤマザクラ、ビワ、カマツカ、ナンキンナナカマド、ナナカマド、ネムノキ、ジャケツイバラ、キハギ、ツクシハギ、ヤマフジ、ナツフジ、サンショウ、イヌザンショウ、カラスザンショウ、コクサギ、ミヤマシキミ、ニガキ、ヒメユズリハ、コバンノキ、アカメガシワ、シラキ、ツゲ、ヌルデ、ハゼノキ、ヤマウルシ、アオハダ、イヌツゲ、ソヨゴ、コマユミ、ユモトマユミ（地上高60cmの幹周154cm）、サワダツ、ツリバナ、チドリノキ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、イタヤカエデ、カジカエデ、コハウチワカエデ、イロハモミジ、ミツデカエデ、ヨコグラノキ、クマヤナギ、アマヅル、サンカクヅル、ノブドウ、サルナシ、ヤブツバキ、ヒメシヤラ、モッコク、サカキ、ヒサカキ、キンシバイ、キブシ、コショウノキ、ガンピ、ミツマタ、ウリノキ、タラノキ、アオキ、ミズキ、クマノミズキ、ヤマボウシ、リョウブ、ヒカゲツツジ、ホンシャクナゲ、ヤマツツジ、モチツツジ、トサノミツバツツジ、オンツツジ、アセビ、ネジキ、コアブラツツジ、ナツハゼ、ウスノキ、スノキ、イズセンリョウ、ヤブコウジ、リュウキュウマメガキ、タンナサワフタギ、アサガラ、サイコクイボタ、ネズミモチ、ヒイラギ、コバノトネリコ、マルバアオダモ、コフジウツギ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、クサギ、キリ、ヘクソカズラ、ニワトコ、コバノガマズミ、ガマズミ、キバナツクバネウツギ、イワツクバネウツギ、ヤブウツギ、スイカズラ、ウグイスカグラ、ヤマウグイスカグラ、ヤマヒョウタンボク、イワガラミ。

### ○草本類

ドクダミ、フタリシズカ、クワクサ、イラクサ、ヤマミズ、ウワバミソウ、ヒメウワバミソウ、ナガバヤブマオ、ヤブマオ、メヤブマオ、カラムシ、ナンカイアオイ、ミヤコアオイ、オオバウマノスズクサ、オオイスタデ、ヤブタデ、ヌカボタデ、タニソバ、ミゾソバ、ミズヒキ、イタドリ、ヤマゴボウ、ハコベ、ミヤマハコベ、ミミナグサ、ツメクサ、ワチガイソウ、カワラナデシコ、ヤマシャクヤク、サイコクサバノオ、シコクブシ、オオバショウマ、サラシナショウマ、タマカラマツ、シギンカラマツ、キツネノボタン、ボタンヅル、トリガタハンショウヅル、シロバナハンショウヅル、タケニグサ、ヒメレンゲ、

ダイモンジソウ、ジンジソウ、アカショウマ、アワモリショウマ、イワボタン、ヘビイチゴ、ダイコンソウ、シロツメクサ、ヌスビトハギ、ネコハギ、メドハギ、カタバミ、ミヤマカタバミ、ゲンノショウコ、トモエソウ、オトギリソウ、ナガバノタチツボスミレ、アオイスミレ、アケボノスミレ、ナガバノスミレサイシン、シハイスミレ、エイザンスミレ、ミズタマソウ、タニタデ、アリノトウグサ、トチバニンジン、ミヤマチドメグサ、ヒメチドメ、オオバチドメグサ、カノツメソウ、ミツバ、セントウソウ、イチヤクソウ、オカトラノオ、ミヤマタゴボウ、ツルリンドウ、センブリ、オオカモメヅル、ヤマルリソウ、オオルリソウ、キンモンキランソウ、オウギカズラ、ニガクサ、オカタツナミソウ、ミヤマナミキ、アキノタムラソウ、ヤマトウバナ、レモンエゴマ、スズコウジュ、オオマルバノテンニンソウ（トサノミカエリソウ）、ヒキオコシ、タカクマヒキオコシ、イヌホオズキ、ヒヨドリジョウゴ、ヤマホロシ、コクワガタ、シコクママコナ、イワタバコ、ハエドクソウ、オオバコ、イナモリソウ、ヤマムグラ、アカネ、オオアカネ、オミナエシ、オトコエシ、カラスウリ、モミジカラスウリ、バアソブ、ヒヨドリバナ、アキノキリンソウ、セイタカアワダチソウ、シラヤマギク、ノコンギク、シンジュギク、ヒメジョオン、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ヤブタバコ、コヤブタバコ、サジガクビソウ、ヒメガクビソウ、メナモミ、コメナモミ、タカサブロウ、リュウノウギク、ヨモギ、フキ、ヒメコウモリソウ、モミジガサ、ヤブレガサ、サワギク、ダンドボロギク、ベニバナボロギク、ノボロギク、オタカラコウ、オオダイトウヒレン、センボンヤリ、テイショウソウ、コウヤボウキ、ナガバノコウヤボウキ、オニタビラコ、ジシバリ、ハガワリトボシガラ、ササクサ、トウササクサ、シナダレスズメガヤ、コウヤザサ、チヂミザサ、メガルガヤ、ススキ、アブラガヤ、テキリスゲ、イワカンスゲ、ヒメカンスゲ、タガネソウ、ケタガネソウ、ナンゴクウラシマソウ、ユキモチソウ、ミツバテンナンショウ、マムシグサ、アオテンナンショウ、ツユクサ、シライトソウ、ショウジョウバカマ、ヤマジノホトトギス、チャボホトトギス、ウナズキギボウシ、ジンリョウユリ、タカサゴユリ、カタクリ、ナルコユリ、ミヤマナルコユリ、ホウチャクソウ、ヤブラン、ヒメヤブラン、サルトリイバラ、ヤマノイモ、ヒメドコロ、ウチワドコロ、カエデドコロ、シャガ、ウチョウラン、ヒナラン、オオバノトンボソウ、ネジバナ、ミヤマウズラ、シラン、マメヅタラン、ムギラン、シュンラン。

## 2) 焼山寺山（下分字地中）

焼山寺（下分字地中<sup>じちゅう</sup>318番地）は空海修行の地と伝えられている。正中2年（1325）には、2反の免田が寄進され、暦応4年（1341）に雨木・三井の二カ所が寺領として寄進されている（焼山寺文書）。このことから参道の杉（昭和37年〔1962〕県指定天然記念物）や焼山寺裏山の寺領樹林は、このころから存在していたと推察される。焼山寺領（約

50ha) の胸高幹周 4 ~ 6 m のアカガシ・ツガ・モミ・スギは600年の歳月、訪れる信者を見守ってきたと考えられる。植物相は標高600m付近より山頂(938m)にかけて、暖温帯林と冷温帯林が混生している。山容は四稜形<sup>りょう</sup>をなし、それぞれ南東・南西・北西・北東に向き、上部の尾根筋には寒さに強いヒメコマツやコウヤマキ・ヒノキ・ソヨゴ・アカマツ・ツガが多く、岩場にはタムシバ・アセビが見られる。また各斜面では自然環境に合った植物相の違いが見られ、寺のある東面では暖温帯性のヤブツバキ・サカキ・カラスザンショウなどが標高800m付近まで侵入していた。

○シダ類

ホソバトウゲシバ、ヒカゲノカズラ、クラマゴケ、スギナ、ゼンマイ、コシダ、コウヤコケシノブ、イヌシダ、フモトシダ、ワラビ、イノモトソウ、オオバノイノモトソウ、イワガネゼンマイ、オニカナワラビ、ヒメウラジロ、タチシノブ、ハコネシダ、シノブ、ツルデンダ、イノデモドキ、ツヤナシイノデ、ジュウモンジシダ、ヤマヤブソテツ、ヒロハヤブソテツ、ハカタシダ、クマワラビ、ヤマイタチシダ、ゲジゲジシダ、ヒメワラビ、ミゾシダ、シシガシラ、チャセンシダ、トラノオシダ、コバノヒノキシダ、イヌワラビ、キヨタキシダ、ミヤマシケシダ、イワトラノオ、クモノスシダ、ビロードシダ、ヒメノキシノブ。

○木本類 (数値は地上高130cmの幹周。( )内はそれ以外の測定地上高。[ ]内は株立ち)

カヤ197cm・190cm、イヌガヤ、モミ424cm・420cm・397cm・374cm・353cm・314cm、ツガ449cm(50cm)・414cm(50cm)・388cm・387cm・366cm・347cm・341cm・333cm・333cm・333cm(100cm)・330cm・326cm・323cm・317cm・304cm・304cm・302cm・302cm・301cm、アカマツ285cm(30cm)・251cm・235cm・216cm・206cm・206cm・203cm、ヒメコマツ292cm・185cm・174cm・157cm・147cm・133cm、コウヤマキ254cm・240cm、ヒノキ210cm・188cm・180cm・162cm・162cm・161cm・160cm・158cm・155cm・154cm・147cm・146cm・143cm・140cm・137cm・134cm・124cm、ノグルミ、アサダ222cm・115cm、イヌシデ204cm・174cm・166cm・160cm、アカシデ、アズサ288cm・180cm・125cm、イヌブナ187cm・151cm、コナラ218cm・105cm、アカガシ569cm・400cm・377cm・345cm、ウラジロガシ [126cm+105cm]・166cm、シラカシ、クリ、ケヤキ320cm、エノキ、ヤマグワ、コウゾ、イヌビワ、マツグミ、フサザクラ、アケビ、ミツバアケビ、ゴヨウアケビ、アオツツラフジ、オオツツラフジ、ホオノキ、タムシバ97cm・94cm、マツブサ、ヤブニッケイ、ダンコウバイ、カナクギノキ、ウスゲクロモジ、カゴノキ、イワガラミ、バイカアマチャ、ツルアジサイ、ノリウツギ、ヤハズアジサイ、コガクウツギ、マルバウツギ、フユイチゴ、クマイチゴ、ナガバモミジイチゴ、クサイチゴ、エビガライチゴ、ナワシロイチゴ、ヤブイバラ、ウワミズザクラ、イヌザクラ、ヤマザクラ249cm・223cm、ウラジロノキ100cm、ネムノキ、コマツナギ、サ

ンショウ、イヌザンショウ、カラスザンショウ161cm、ミヤマシキミ、ニガキ、ユズリハ、コバンノキ、アカメガシワ、シラキ、ツタウルシ、ヌルデ、ヤマウルシ、アオハダ、イヌツゲ、ソヨゴ115cm・77cm、コマユミ、ツルマサキ、マユミ、ウリハダカエデ、イタヤカエデ、コハウチワカエデ88cm、イロハモミジ315cm (50cm)、ミツデカエデ、トチノキ、クマヤナギ12cm、サンカクヅル、ノブドウ、ツタ、サルナシ24cm、マタタビ、オニマタタビ(逸出)、チャノキ、ヒサカキ、イイギリ、キブシ、コショウノキ、ナワシログミ、ウリノキ、タラノキ、コシアブラ87cm・70cm・69cm、ハリギリ96cm、ハナイカダ、ミズキ、クマノミズキ、リョウブ [67cm+39cm+31cm+46cm]、ヤマツツジ、オンツツジ27cm、アセビ110cm・78cm・78cm・77cm、ネジキ105cm、ベニドウダン、ウスノキ、スノキ、ヤブコウジ、タンナサワフタギ、エゴノキ、ネズミモチ、ヒイラギ100cm、マルバアオダモ、テイカカズラ、ヤブムラサキ、クサギ、ヘクソカズラ、ニワトコ、ヤマシグレ、キバナツクバネウツギ、スイカズラ、ガマズミ、ヤブウツギ。

○草本類

ドクダミ、フタリシズカ、クワクサ、イラクサ、アオミズ、コミヤマミズ、ヒメウワバミソウ、メヤブマオ、アカソ、コアカソ、カラムシ、スイバ、オオイヌタデ、ヤブタデ、タニソバ、ミゾソバ、イタドリ、ミズヒキ、ケアリタソウ、イノコズチ、マルミノヤマゴボウ、ノミノツヅリ、ヤマシャクヤク、サイコクサバノオ、ケキツネノボタン、キツネノボタン、ボタンヅル、タカネハンショウヅル、トリガタハンショウヅル、シロダモ、マメゲンバイナズナ、イヌガラシ、タネツケバナ、ツルマンネングサ(逸出)、ミツバベンケイソウ、アカショウマ、ユキノシタ、ツルネコノメソウ、ギンバイソウ、クサアジサイ、オヘビイチゴ、ヘビイチゴ、ダイコンソウ、キンミズヒキ、ヌスビトハギ、ヤブハギ、ネコハギ、ホドイモ、ノササゲ、ヤブマメ、クズ、カタバミ、ミヤマカタバミ、ゲンノショウコ、マツカゼソウ、エノキグサ、カラスノゴマ、オトギリソウ、コオトギリ、タチツボスミレ、アオイスマレ、シハイスミレ、タニタデ、コマツヨイグサ、トチバニンジン、ミツバ、セリ、イチヤクソウ、シャクジョウソウ、ミヤマタゴボウ、コナスビ、アサマリンドウ、ツルリンドウ、アケボノソウ、オオカモメヅル、ヤマルリソウ、サウルリソウ、キラソウ、ニガクサ、カキドオシ、ウツボグサ、アキノタムラソウ、トウバナ、イヌトウバナ、ヤマトウバナ、レモンエゴマ、ヒメジソ、ヤマハッカ、タカクマヒキオコシ、ヒキオコシ、ヒヨドリジョウゴ、ダンドボロギク、ベニバナボロギク、ウリクサ、シコクママコナ、イワタバコ、ハエドクソウ、オオバコ、ハシカグサ、ヤエムグラ、オククルマムグラ、ヤマムグラ、アカネ、オトコエシ、カラスウリ、モミジカラスウリ、アマチャヅル、ホタルブクロ、タニギキョウ、ツルニンジン、ヒヨドリバナ、アキノキリンソウ、セイタカアワダチソウ、シロヨメナ、ノコンギク、ヒメジョオン、オオアレチノギク、ヒメムカ

## 植物相班

シヨモギ、チチコグサ、チチコグサモドキ、コヤブタバコ、ヒメガンクビソウ、ノブキ、ハキダメギク、コメナモミ、アメリカセンダングサ、ヨモギ、モミジガサ、オタカラコウ、ノアザミ、センボンヤリ、キッコウハグマ、テイショウソウ、コウヤボウキ、アカミタンポポ、ジシバリ、ムラサキニガナ、アキノノゲシ、ハナヤクシソウ、オニノゲシ、メダケ、ヤダケ、アキノエノコログサ、アキメヒシバ、コメヒシバ、イヌビエ、チヂミザサ、コブナグサ、ススキ、アシボソ、サナギスゲ、ミツバテンナンショウ、マムシグサ、アオテンナンショウ、ツユクサ、ナベワリ、シロバナショウジョウバカマ、ヤマジノホトトギス、ヤブカンゾウ、コオニユリ、ウバユリ、ナルコユリ、オオナルコユリ、ホウチャクソウ、ヒメヤブラン、リュウノヒゲ、サルトリイバラ、シオデ、ヤマノイモ、オニドコロ、シャガ、ニワゼキショウ、ミョウガ、オオバノトンボソウ、ミヤマウズラ、エビネラン、シュンラン。

## ○植栽

イチヨウ、イチイ、イヌマキ、ヒメコマツ、サンコノマツ、コウヤマキ、スギ620cm・598cm・547cm・543cm・540cm・536cm・533cm・530cm・514cm・514cm・505cm・500cm・495cm・494cm・482cm・481cm・480cm・470cm・450cm・448cm・441cm・423cm・422cm・416cm・414cm・412cm・407cm・404cm・404cm・403cm・403cm、カラマツ178cm・148cm・146cm、アスナロ、ヒヨクヒバ、カイズカイブキ、タマイブキ、イチジク、コブシ、シキミ、シャクヤク、ヒイラギナンテン、ホソバヒイラギナンテン、ホウライナンテン、ロウバイ、ゲツケイジュ、アジサイ、ビワ、カナメモチ、ヤエノヤマブキ、イザヨイバラ、セイヨウバラ、ウメ、モモ、ニワザクラ、ハナズオウ、ミヤギノハギ、サンショウ、クロガネモチ、ニシキギ、ホウセンカ、ムクゲ、モミジアオイ、ツバキ、ナツツバキ、サザンカ、サカキ、サルスベリ、ヤツデ、アメリカヤマボウシ、アオキ、セイヨウシャクナゲ、ホンシャクナゲ、ヤクシマシャクナゲ、サツキツツジ、ヒラドツツジ、カキ、キンモクセイ、チシャノキ、ハクチョウゲ、ルリギク（通称ストケシア）、キリンギク（リアトリス）、テンジクボタン（ダリア）、キバナコスモス、クジャクソウ（マリーゴールド）、キク、オオセンボンヤリ（ガーベラ）、ホテイチク、モウソウチク、オカメザサ、クマザサ、シホウチク、カミガヤツリ、セキショウ、オランダカイウ（カラー）、ナンカイギボウシ、タキユリ、アヤメ、ヒオオギ、オランダアヤメ（グラジオラス）。

### 3) 雨乞滝道（神領字谷）の植物相

日本百滝の一つに選ばれた<sup>あまごいの</sup>雨乞滝は、溪谷に沿って登山道がついている（写真3）。急傾斜の溪谷は大小幾つもの滝を作り、砕ける水の音と共に、しぶきは周辺の植物に潤いを与え、豊富な植物を育てている。駐車場から滝までと悲願寺周辺の植物相は次の通りである。



○シダ類

ホソバトウゲシバ、クラマゴケ、カタヒバ、スギナ、ナツノハナワラビ、ゼンマイ、ウラジロ、キヨスミコケシノブ、イヌシダ、コバノイシカグマ、キジノオシダ、イワガネゼンマイ、オオバノイノモトソウ、オオバノハチジョウシダ、ヒメウラジロ、シノブ、ジュウモンジシダ、イノデ、ヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、



写真3 雨乞滝道

ハカタシダ、オニカナワラビ、リョウメンシダ、オクマワラビ、クマワラビ、ヤマイタチシダ、ヒメイタチシダ、ベニシダ、オオベニシダ、キヨスミヒメワラビ、ゲジゲジシダ、イブキシダ、ミゾシダ、エビラシダ、ウスヒメワラビ、サトメシダ、ヤマイヌワラビ、イヌワラビ、シケチシダ、ハコネシケチシダ、ノコギリシダ、ヌリトラノオ、チャセンシダ、トラノオシダ、トキワシダ、ノキシノブ、クリハラン、ミツデウラボシ、マメヅタ、ヒトツバ、シシラン、ミヤコイヌワラビ、ホソバイヌワラビ、ナンゴクナライシダ、ツヤナシイノデ、サカゲイノデ、オオクジャクシダ。

○木本類

イヌガヤ、ツガ、アカマツ、ヒノキ、アラカシ、ケヤキ、イタビカズラ、イヌビワ、コアカソ、ヒノキバヤドリギ、フサザクラ、ミツバアケビ、シキミ、ビナンカズラ、ヤブニッケイ、ウスゲクロモジ、カゴノキ、バリバリノキ、アブラチャン、バイカアマチャ、ノリウツギ、ツルアジサイ、コガクウツギ、マルバウツギ、ウツギ、ヤエノヤマブキ（植栽）、オオフユイチゴ、フユイチゴ、ナガバモミジイチゴ、クサイイチゴ、ナワシロイチゴ、リンボク、ビワ、ヤマフジ、フユザンショウ、サンショウ、アカメガシワ、シラキ、ヤマウルシ、ソヨゴ、マユミ、イタヤカエデ、イロハモミジ、サンカクヅル、ツタ、ヤブツバキ、サカキ、ヒサカキ、キブシ、ナワシログミ、キヅタ、タカノツメ、アオキ、ミズキ、リョウブ、ヒカゲツツジ、ヤマツツジ、モチツツジ、コバノミツバツツジ、アセビ、ネジキ、ベニドウダン、ウスノキ、アクシバ、イズセンリョウ、ヤブコウジ、マメガキ（植栽）、カキノキ、エゴノキ、ネズミモチ、マルバアオダモ、テイカカズラ、ヤブムラサキ、カギカズラ。

○草本類

シラネセンキュウ、ドクダミ、フタリシズカ、イラクサ、ミズ、メヤブマオ、カラムシ、オオバウマノスズクサ、スイバ、エゾノギシギシ、ヤブタデ、イタドリ、ミズヒキ、イノコズチ、マルミノヤマゴボウ、ミヤマハコベ、ツメクサ、キツネノボタン、ボタンヅル、

## 植物相班

タケニグサ、イヌガラシ、マルバマンネングサ、ミツバベンケイソウ、ジンジソウ、イワボタン、シコクチャルメルソウ、オヘビイチゴ、ヘビイチゴ、ダイコンソウ、シロツメクサ、ホドイモ、ヤブマメ、カタバミ、ゲンノショウコ、マツカゼソウ、ナガバノタチツボスミレ、ミズタマソウ、ウシタキソウ、タニタデ、トチバニンジン、チドメグサ、オオバチドメグサ、ミツバ、ミヤマタゴボウ、クズ、オオマルバノテンニンソウ、ヘクソカズラ、ツルリンドウ、オオカモメヅル、ネナシカズラ、ヤマルリソウ、キュウリグサ、ミズタバコ、キンモンキランソウ、タニジャコウソウ、イヌトウバナ、ヤマトウバナ、ヒキオコシ、アメリカイヌホオズキ、ハグロソウ、オオバコ、クルマムグラ、オトコエシ、カラスウリ、アマチャヅル、タニギキョウ、バアソブ、ヒヨドリバナ、アキノキリンソウ、ホソバコンギク、ヒメジョオン、オオアレチノギク、コヤブタバコ、フキ、モミジガサ、ベニバナボロギク、ノアザミ、キッコウハグマ、コウヤボウキ、オニタバコ、ハチク、ヒメノガリヤス、ススキ、アシボソ、マスクサ、カンズゲ、ジュズスゲ、ユキモチソウ、ツユクサ、シロバナショウジョウバカマ、コオニユリ、カノコユリ、ウバユリ、ヤブラン、ヒメヤブラン、ジャノヒゲ、ヤマノイモ、ヒメドコロ、シャガ、ミョウガ、カヤラン。

### 4) 県立神山森林公園（阿野字大地459の1）内の植物相

県立神山森林公園（写真4）は、平成元年（1989）5月21日、第40回全国植樹祭の会場となった。アカマツ林であったが、枯れてその後にヤマザクラが優占している。現在の森林公園の特徴としては

- (1) 管理棟付近から裏山にかけて、国外の樹木が多く植栽されている。
- (2) 各所に植物名札のついた森や群落地が設けられている。



写真4 神山森林公園

#### ○シダ類

ヒカゲノカズラ、スギナ、オオハナワラビ、フユノハナワラビ、フモトシダ、イヌシダ、ホラシノブ、イワヒメワラビ、サカゲイノデ、ヤブソテツ、オニヤブソテツ、ホソバカナワラビ、オオカナワラビ、クマワラビ、ゼンマイ、ヒメワラビ、カニクサ、ホソバシケシダ、コシダ、ウラジロ、ノキシノブ、ミツデウラボシ、マメヅタ、ヒトツバ、ホシダ、ワラビ、イノモトソウ、タチシノブ、ベニシダ、ゲジゲジシダ、シシガシラ。

#### ○木本類

イヌガヤ、モミ、クロマツ、アカマツ、ヒノキ、ネズ、ハコヤナギ、ヤマモモ189+138(80)cm・332(35)cm、ノグルミ、イヌシデ、ヤマハンノキ、クヌギ、コナラ、アオナラガ

シワ、アラカシ、ツブラジイ、クリ、ハルニレ88cm・66cm・100cm、エノキ、ヤマグワ、コウゾ、ツルコウゾ、イタビカズラ、ヒメイタビ、イヌビワ、マツグミ、アケビ、ミツバアケビ、ゴヨウアケビ、アオツツラフジ、ホオノキ、ビナンカズラ、クスノキ、ヤブニツケイ、タブノキ123cm、シロダモ、アオモジ、カナクギノキ、アブラチャン、カゴノキ、ノリウツギ、マルバウツギ、コガクウツギ、ウツギ、ノイバラ、テリハノイバラ、ヤブイバラ、クサイチゴ、ナガバモミジイチゴ、ナワシロイチゴ、クマイイチゴ、エビガライチゴ、コジキイチゴ、フユイチゴ、ヤマザクラ185(80)cm、ビワ、カナメモチ、カマツカ、ウラジロノキ103cm、ネムノキ、イヌエンジュ、フジ、ヤマフジ、ツクシハギ、サンショウ、イヌザンショウ、コクサギ、アカメガシワ、アブラギリ、ハゼノキ、ヤマハゼ、ヤマウルシ、ヌルデ、クロガネモチ、ソヨゴ、イヌツゲ、アオハダ、タマミズキ、コマユミ、ニシキギ、マユミ、ツルウメモドキ、ゴンズイ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、イタヤカエデ187cm、イロハモミジ、サンカクヅル、ノブドウ、ツタ、チャノキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、キブシ、ナワシログミ、タラノキ、キヅタ、コシアブラ、タカノツメ、アオキ、クマノミズキ、リョウブ、ヤマツツジ、モチツツジ、オンツツジ、アセビ、ネジキ、ナツハゼ、スノキ、ウスノキ、ヤブコウジ、カキ、エゴノキ、マルバアオダモ、ネズミモチ、イボタノキ、サイコクイボタ、テイカカズラ、ヤブムラサキ、クサギ、キリ、コバノガマズミ、ガマズミ、スイカズラ。

○草本類

ドクダミ、クワクサ、ミズ、アオミズ、メヤブマオ、コアカソ、カラムシ、ナンカイアオイ、スイバ、エゾノギシギシ、オオイヌタデ、イヌタデ、ヤブタデ、ミズヒキ、イタドリ、シロザ、ケアリタソウ、ヨウシュヤマゴボウ、ハコベ、ウシハコベ、オランダミミナグサ、ミミナグサ、オオツメクサ、ケフシグロ、カワラナデシコ、シギンカラマツ、ウマノアシガタ、センニンソウ、ボタンヅル、タケニグサ、イヌガラシ、タネツケバナ、コモチマンネングサ、キジムシロ、ツルキンバイ、オヘビイチゴ、ヘビイチゴ、ダイコンソウ、キンミズヒキ、シロツメクサ、コマツナギ、ネコハギ、ヤハズソウ、スズメノエンドウ、ノササゲ、トキリマメ、クズ、カタバミ、ムラサキカタバミ、ゲンノショウコ、マツカゼソウ、ヒメハギ、ヒメミカンソウ、エノキグサ、コニシキソウ、オオニシキソウ、ヤブガラシ、カラスノゴマ、オトギリソウ、コゴメバオトギリ、ニオイスマレ、タチツボスマレ、ニオイタチツボスマレ、ナガバナタチツボスマレ、アオイスマレ、シハイスミレ、スマレ、ヒゴスマレ、ミズタマソウ、アレチマツヨイグサ、アリノトウグサ、セントウソウ、オカトラノオ、コナスビ、フジウツギ、リンドウ、ツルリンドウ、センブリ、アケボノソウ、コイケマ、ガガイモ、コヒルガオ、ハナイバナ、ホタルカズラ、アレチハナガサ、キランソウ、タツナミソウ、オカタツナミソウ、ツルニガクサ、カキドオシ、ヒメオドリ

## 植物相班

コソウ、アキノタムラソウ、シソ、ヒメジソ、ナギナタコウジュ、ヤマハッカ、ヒヨドリ  
ジョウゴ、コシオガマ、キツネノマゴ、オオバコ、トウオオバコ、ハシカグサ、ヘクソカ  
ズラ、ヤエムグラ、ヨツバムグラ、アカネ、オミナエシ、オトコエシ、モミジカラスウリ、  
ツリガネニンジン、ツルニンジン、コメナモミ、センボンヤリ、コウヤボウキ、ヒヨドリ  
バナ、サワヒヨドリ、アキノキリンソウ、セイトカアワダチソウ、シラヤマギク、シロヨ  
メナ、ノコンギク、ヒメジョオン、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ハハコグサ、  
チチコグサ、チチコグサモドキ、ヤブタバコ、コヤブタバコ、サジガントビソウ、キバナ  
ガントビソウ、センダングサ、アメリカセンダングサ、リュウノウギク、ヨモギ、オトコ  
ヨモギ、カワラヨモギ、フキ、ヤブレガサ、ダンドボロギク、ベニバナボロギク、ツワブ  
キ、ノアザミ、シコクアザミ、センボンヤリ、キッコウハグマ、テイショウソウ、コウゾ  
リナ、オニタビラコ、カンサイタンポポ、ジシバリ、ムラサキニガナ、アキノノゲシ、ヤ  
クシソウ、ハナヤクシソウ、オオニガナ、ノゲシ、オニノゲシ、マダケ、メダケ、ヤダケ、  
アオカモジグサ、ヤマカモジグサ、スズメノカタビラ、ヒロハウシノケグサ、ササクサ、  
サイトウガヤ、ヒメヌカボ、チカラシバ、キンエノコロ、メヒシバ、ヌカキビ、イヌビエ、  
チヂミザサ、タチスズメノヒエ、シマスズメノヒエ、コブナグサ、メリケンカルカヤ、ス  
スキ、チガヤ、アシボソ、アブラススキ、カヤツリグサ、アゼガヤツリ、ヒメクダ、コゴ  
メスゲ、ナキリスゲ、ヒカゲスゲ、モエギスゲ、アオスゲ、ケスゲ、シュロ、ツユクサ、  
ヤブマメ、ショウジョウバカマ、ヤマジノホトトギス、コオニユリ、アマドコロ、ナルコ  
ユリ、オモト、ヒメヤブラン、リュウノヒゲ、サルトリイバラ、ヒガンバナ、ヤマノイモ、  
ウチワドコロ、シャガ、ヒオオギ、ニワゼキショウ、シュンラン、ミヤマウズラ。

## ○植栽

ソテツ、イチヨウ、ラカンマキ、チョウセンマキ、ウラジロモミ、スラッシュマツ、ク  
ロマツ、ダイオウマツ、チョウセンゴヨウ、セカイアメスギ、ラクウショウ、アケボノス  
ギ、ヨーロッパトウヒ、スギ、コウヨウザン、スイショウ、コノテガシワ、ヒノキ、ミヤ  
マビャクシン、ハコヤナギ、ヤマモモ、クヌギ、ウバメガシ、シラカシ、ウラジロガシ、  
アラカシ、ツブラジイ、スタジイ、アキニレ、ケヤキ、エノキ、カツラ、コブシ、タイサ  
ンボク、オガタマノキ、ユリノキ、ロウバイ、クスノキ、ニッケイ、タブノキ、ウスゲク  
ロモジ、カゴノキ、ゲツケイジュ、ガクアジサイ、アジサイ、トベラ、フウ、アメリカフ  
ウ、トサミズキ、ユキヤナギ、シジミバナ、コデマリ、タチバナモドキ、ヤマブキ、ヤエ  
ノヤマブキ、ウメ、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、シダレザクラ、サトザクラ、バクチ  
ノキ、セイヨウバクチノキ、ギンヨウアカシア、ハナズオウ、シャリンバイ、カリン、エ  
ンジュ、シダレエンジュ、フジ、エニシダ、ミヤギノハギ、ツクシハギ、マルバハギ、メ  
ドハギ、スタチ、シンジュ、ナンキンハゼ、フッキソウ、ランシンボク（カイ）、モチノ

キ、クロガネモチ、マメツゲ、ウメモドキ、タラヨウ、ニシキギ、トウカエデ、ノムラカエデ、イロハモミジ、トチノキ、オオバボダイジュ、ムクゲ、オニマタタビ、ヤブツバキ、ツバキ、サザンカ、カンツバキ、ナツツバキ、ヒメシャラ、モッコク、サルスベリ、ブラシノキ、ユーカリ、ヤツデ、カナリーキヅタ、アオキ、ヤマボウシ、アメリカヤマボウシ、ホンシャクナゲ、レンゲツツジ、オンツツジ、ヤマツツジ、キリシマツツジ、クルメツツジ、ミヤマキリシマ、サツキツツジ、シロリュウキユウ、ヒラドツツジ、ヨドガワツツジ、ドウダンツツジ、サラサドウダン、アセビ、マンリョウ、サンシュユ、エゴノキ、オウバイモドキ、キンモクセイ、ヒイラギ、トウネズミモチ、イボタノキ、レンギョウ、ムラサキハシドイ、キョウチクトウ、コムラサキシキブ、クチナシ、コクチナシ、ハクチョウゲ、ハナゾノツクバネウツギ、サンゴジュ、ハコネウツギ、マルバグミ、スイレン、ヒメビジヨザクラ、ブタナ、ツワブキ、ギョウギシバ、コウライシバ、ガマ、オオカナダモ、エビモ、オカメザサ、タカサゴユリ、アマリリス、アヤメ、シャガ。

○<sup>のり</sup>法面<sup>ま</sup>に播かれた植物

タイワンコマツナギ、イタチハギ、キキョウ、オオキンケイギク、テンニンギク、セイヨウノコギリソウ、イワヨモギ、フランスギク、ハイイロヨモギ、シナダレスズメガヤ。

5) 雲早山（上分字江田）の植物相

町村道剣山線（通称剣山スーパー林道）沿いに雲早山登山口（標高約1015m）がある。登山口から約300m登った所までは、絶えることのない水が流れ、源流域の様相である。この豊富な水が、多種多様な植物相をはぐくんでいる。自然林の高度位置は柴小屋の方が200m程低く、地形・気象に大きな相違があるようである。同じブナ林内でも雲早山にはサワグルミ、オオイタヤメイゲツ、トチノキ、アサガラ、コハウチワカエデなどの好水性の植物が多い（写真5）。柴小屋に比べて山の斜度がやや緩いため腐植層が堆積しやすく、



写真5 雲早山の林相

そのため草本類も多く見られ、オオヤマカタバミ、ヤマトグサ、オオバショウマなどが見られた。木沢村境の1450m付近まで記録したものは次の通りである。

○高木層（地上高12m以上の植物層）

スギ190cm、サワグルミ、アズサ274(40)cm、ブナ400cm、カツラ210cm・333cm、キハダ162cm・180cm・190cm・209cm、オオイタヤメイゲツ108cm、ウリハダカエデ128cm・206(60)cm、イタヤカエデ174cm、コハウチワカエデ、トチノキ155cm・167cm、カナクギノキ、ヒ

## 植物相班

メシヤラ、ハリギリ120cm、ミズキ120cm、アサガラ、シオジ166cm・193cm・223cm・408cm(根回り)。

### ○亜高木層 (地上高 8 m 以上、12m 未満の植物層)

オシャグジデンダ、ミヤマノキシノブ、ホテイシダ、ツガ、ブナ、クマシデ、フサザクラ、カナクギノキ、アオベンケイ、ツルアジサイ、ミヤマザクラ、ウワミズザクラ136cm、ツタウルシ、アオハダ、ツリバナ、ユモトマユミ314cm、ツルマサキ、オオイタヤメイゲツ、コミネカエデ、テツカエデ102cm・102cm、イタヤカエデ174cm、チドリノキ、アワブキ、サルナシ19cm、ナツツバキ、ヒメシヤラ、ヒコサンヒメシヤラ、リョウブ、タンナサワフタギ、オオバアサガラ89cm・259(30)cm、コハクウンボク、ニワトコ。

### ○低木層 (地上高 1 m 以上、8 m 未満の植物層)

ミヤマクロモジ、シロモジ、バйкаウツギ、ウツギ、ガクウツギ、コガクウツギ、カマツカ、ケカマツカ、ヤハズアジサイ、ノリウツギ、クマイチゴ、ヤブイバラ、シラキ、チドリノキ、ミツデカエデ、クロウメモドキ、キブシ、コバノミツバツツジ、タンナサワフタギ、コバノトネリコ、ニワトコ。

### ○草本層 (地上高 1 m 未満の植物層)

ジュウモンジシダ、ツヤナシイノデ、ミヤマクマワラビ、イヌワラビ、キヨタキシダ、フタリシズカ、ナガバイラクサ、ムカゴイラクサ、ウワバミソウ、ヒメウワバミソウ、コアカソ、ミヤコアオイ、ミヤマツチトリモチ、ミヤマタニソバ、ミズヒキ、ハルトラノオ、ヤマトグサ、ミドリハコベ、ミヤマハコベ、オオヤマハコベ、サイゴクサバノオ、シコクブシ、オオバショウマ、メギ、ユリワサビ、オノマンネングサ、ヒメレンゲ、シコクトリアシショウマ、ジンジソウ、イワボタン、ハナネコノメ、シコクチャルメルソウ、ヒメウツギ、バйкаアマチャ、ヤマアジサイ、クサアジサイ、ギンバイソウ、ツチグリ、ツルキンバイ、ダイコンソウ、コミヤマカタバミ、オオヤマカタバミ、コフウロ、ハガクレツリフネ、シコクスミレ、トチバニンジン、ウマノミツバ、ヒカゲミツバ、シシウド、ハナйкаダ、コナスビ、ムラサキシキブ、ヤマジオウ、ヤマトウバナ、イヌトウバナ、トサノミカエリソウ、アキチョウジ、タカクマヒキオコシ、ハシリドコロ、ヤマウツボ、ヤマムグラ、オオキヌタソウ、タニギキョウ、モミジガサ、テバコモミジガサ、タイミンガサモドキ、オタカラコウ、イシヅチウスバアザミ、スズタケ、ヌカスゲ、ミツバテンナンショウ、マムシグサ、アオテンナンショウ、ナベワリ、ヌカボシソウ、アワコバイモ、ユキザサ、ツクバネソウ。

## 4. 昭和50年以降絶滅したとおもわれる種

昭和50年(1975)以前に神山町内に自生していたが、スギ・ヒノキ林の増加、草地の減

少、林道の奥地までの侵入、採集などにより今回の調査では確認できなかった植物がある。絶滅危惧種ⅠA類のイヨトンボ(北)、絶滅危惧種ⅠB類のムラサキ(南大久保・南野間)、イイヌマムカゴ(南大久保)、ヒメユリ(高根)、キエビネ(南上角・鍋岩・京地・栗生野・江島)、サルメンエビネ(栗生野・三ツ木・江島)、キバナノショウキラン(地中)、絶滅危惧種Ⅱ類のスズサイコ(北)、カザグルマ(谷)、オキナグサ(南大久保・柳瀬)、ナツエビネ(栗生野・江島・南大久保)、その他のイワオモダカ(南野間・三ツ木)、アオガネシダ(北上角・三ツ木)、タカノハウラボシ(柳瀬)、モウセンゴケ(南野間)、ベニカヤラン(西小野)、タマガワホトトギス(江田)、バイケイソウ(江田)である。

## 5. 特筆すべき植物

神山町で確認した特筆に値する巨樹・群落・希産種・絶滅危惧種を挙げる。海岸地に多いタブノキが宮分682cm(県内1位)・下喜来595cmなど阿野地区の社叢林に特に多い。馬地のカゴノキ[277+261+250cm](県内1位)、自生の少ないイチイガシは本上角の587cm(県内1位)、県南に多いモチノキが町内全域の社叢林に、海岸に生えるミミズバイの群落が栗生野、モッコクの小群落が南大久保、海部郡内に見られるルリミノキが福原にあり、基準産地のジンリョウユリがわずかに残存している。代次のセンダンが446cm・樹高20m(県内2位)。ヒメウラジロ(絶滅危惧種Ⅱ類)が河川流域の付近や標高600m付近までの各所に見られた。

希産種にはマツバラシ、エビガラシダ、コウラボシ、ノキシノブ×コウラボシ、ヤノネシダ、クジャクシダ、エビラシダ、コアブラツツジ、シャクジョウソウ(写真6)、ギンラン、ヒトツボクロ。絶滅危惧種ⅠB類にはタマカラマツ、ヒナラン、マヤラン(写真7)、絶滅



写真6 シャクジョウソウ



写真7 マヤラン

危惧種Ⅱ類にはフクジュソウ、チャボツメレンゲ、オオヤマカタバミ、タシロラン、モミジバセンダイソウ、マメラン、ムギラン、キンラン、クマガイソウ、準絶滅危惧種ではシランが見られた。

参考文献

- 蔵本弥市（1960）神領村誌。神領村。
- 牧野富太郎（1963）牧野新日本植物図鑑。北隆館。
- 上原敬二（1971）樹木大図説。有明書房。
- 北村四郎・岡本省吾（1972）原色日本樹木図鑑。保育社。
- 北村四郎・村田 源ほか（1972）原色日本植物図鑑草本編（上中下）。保育社。
- 北村四郎・村田 源（1972）原色日本植物図鑑木本編Ⅰ。保育社。
- 北村四郎・村田 源（1979）原色日本植物図鑑木本編Ⅱ。保育社。
- 田川基二（1972）原色日本羊歯植物図鑑。保育社。
- 長田武正（1972）日本帰化植物図鑑。北隆館。
- 大井次三郎（1973）日本植物誌。至文堂。
- 阿波学会（1976）総合学術調査報告 神山町 郷土研究発表会紀要 第22号。徳島県立図書館。
- 長田武正（1976）原色日本帰化植物図鑑。保育社。
- 林 弥栄（1985）日本の樹木。山と溪谷社。
- 本間三郎（1985）野草検索図鑑シダ。学習研究社。
- 林 弥栄（1986）日本の野草。山と溪谷社。
- 佐竹義輔・大井次三郎ほか編（1987）日本の野生植物 草本（Ⅰ～Ⅱ）。平凡社。
- 長田武正（1989）日本イネ科植物図譜。平凡社。
- 阿部近一（1990）徳島県植物誌。教育出版センター。
- 佐竹義輔・原 寛ほか編（1991）日本の野生植物 木本（Ⅰ～Ⅱ）。平凡社。
- 岩槻邦男（1992）日本の野生植物 シダ。平凡社。
- 環境庁自然保護局野生生物課（1997）植物版レッドデータブック作成について。環境庁。